

大学生における「マンガ」「アニメ」「活字の単行本」の 利用状況の基本調査

小池 庸 生¹⁾

Basic Research on the Students' Use of "Manga", "Animation Movies", and "Books"

Nobuo Koike¹⁾

Abstract

We often hear that the increasing popularity of *manga* (Japanese cartoons/comics) is causing people to read fewer books. In an attempt to shed light on this problem, I conducted a study to investigate a trend among those who read *manga*, watch animation movies or read books. Based on the results of this investigation, it was found that the average rating for those who read *manga* was 3.77, for those who watched animation movies was 3.35, and for those who enjoyed reading books was 2.91. In sum, it was found that those who enjoyed reading *manga* and watching animation movies belonged to the largest group; whereas, those who enjoyed reading books belonged to the smallest group. It was also revealed that participants belonging to the larger group enjoyed both reading *manga* and watching animation movies, while participants in the smaller group enjoyed neither one.

Key words: *manga* (Japanese cartoons/comics), animation movies, books
キーワード: マンガ, アニメ, 活字本, 作品反応数

1. はじめに

近年、「マンガ」の発行部数や作品数が一段と増えているといわれている。少年雑誌は「少年ジャンプ」や「少年サンデー」などが約30誌強、少女雑誌は「マーガレット」や「花とゆめ」など約50誌が発行されている。一つの雑誌に約20作品ほどが連載されているとすると、少年少女漫画だけで、1,600作品が掲載されていることになる。これに青年誌とよばれるものを加えると、毎月100誌強のマンガ雑誌が発行され、2,000作品が書かれていることになる。「マンガ」はもはや日本の文化であるといって過言ではない。「このマンガがすごい」という本が、2007年から出版され、その年に話題となったマンガをランキングしている。現在では2014年度版が出版予定となっており、

1) 育英短期大学現代コミュニケーション学科

すでに8年も続いていることも「マンガ」が文化的な定着をしていることの証であろう。調査の期間は、その年度の10月1日から翌年の9月30日までに発刊された単行本を対象としている。2011年度では、オトコ編として「進撃の巨人」「テルマエ・ロマエ」「さよならもいわずに」「ONE PIECE」「鋼の錬金術師」が、オンナ編として「HER」「ドントクライ、ガール」「海月姫」「ちはやふる」「夏雪ランデブー」がベスト5として上げられている。2012年度には、オトコ編として「ブラック・ジャックの創作秘話」「グラゼニ」「ましろのおと」「Hunter×Hunter」「3月のライオン」が、オンナ編として「花のズボラ飯」「昭和元祿落語心中」「うどんの女」「姉の結婚」「地上はポケットの中の庭」がベスト5として上げられている。2013年度には、オトコ編として「テラフォーマーズ」「ハイスコアガール」「人間仮免中」「ハイキュー!!」「銀の匙」が、オンナ編として「俺物語!!」「式の前日」「きょうは会社休みます」「ひばりの朝」「かくかくしかじか」がベスト5として上げられている。

以上の30作品のうち、アニメ化されているものは「進撃の巨人」「ONE PIECE」「鋼の錬金術師」「海月姫」「ちはやふる」「夏雪ランデブー」「Hunter×Hunter」「花のズボラ飯」「銀の匙」と9作品ある。ドラマや映画などの実写化されたものは「テルマエ・ロマエ」「ブラック・ジャックの創作秘話」の2作品である。ベストに挙げられていない作品でも、かなりの数の「マンガ」が「アニメ化」されている。マンガだけでなく、書籍のアニメ化なども行われており、「ジブリ作品」や「ディズニー作品」もアニメ作品としてたくさんの人に好まれている。日本のアニメ技術は、世界でも優れた評価を受けており、「マンガ」と並んで「アニメ」も日本の文化を代表するものといえる。

「マンガ」や「アニメ」が低俗で、非教育的であるとされた時代とは異なり、現在では、様々な場面で「マンガ」や「アニメ」が利用されてきている。そこには「マンガ」や「アニメ」が映像的で感覚的に受け取れるため、理解を促進するというメリットが考えられている。そのような中で、「マンガ」を読む子どもは「本」もよく読むと言われている。この考え方が本当に正しいのかどうかは、いまだに検証されていないと思われるので、本研究を進めていく上で検証すべき仮説の一つと考えている。

「マンガ・アニメ」とは異なり、文字を中心とした活字の単行本（以後「活字本」とする）の発行部数を見ると、2007、2008年は78,000部強、2010年は77,000部強となっている。しかし、年々発行部数が減少していると言われ続けていることと、購買数や読者数も減少してきていると言われ続けていることなどから、若者の活字本離れがよく言われている。古典的名著文庫の装丁を変えたり、活字を大きくしたりなどの工夫を出版業界は行って、若者の活字離れを防ごうとしていることなどが報道されていることも事実である。

本当に、「マンガ」や「アニメ」がどれだけ若者たちの間に浸透しているのか、活字本をどれだけ読んでいるのか、その結果として活字離れが進んできているのかどうかということを調査することと、「マンガ」を読む子どもは「活字本」も読む、といわれていることから「マンガ」と「活字本」の関係について調査することを目的として、本研究は行われた。

2. 方法

1) 調査対象者：T大学とI短期大学の学生669名(男子193名、女子476名)で、平均年齢は18.4歳でSDは1.33であった(男子の平均年齢は18.9歳、SDが1.65、女子の平均年齢は18.3歳、SDが1.13であった)。

2) 手続き：次のような質問紙を与えて、回答してもらった。第1部は、「マンガ・アニメ・活字本」についての次のような質問である。質問①マンガを読むのが好きだ、質問②好きなマンガの作品がある、質問③好きなマンガの作家がいる、質問④好きなマンガ本(単行本)がある、質問⑤好きなマンガ雑誌がある、質問⑥マンガ雑誌を毎週読んでいる、質問⑦アニメを見るのが好きだ、質問⑧好きなアニメの作品がある、質問⑨好きなアニメの作家がいる、質問⑩好きなアニメ本(単行本)がある、質問⑪好きなアニメ雑誌がある、質問⑫アニメ雑誌を毎週読んでいる、質問⑬活字本を読むのが好きだ、質問⑭好きな活字本の作品がある、質問⑮好きな活字本の作者がいる、質問⑯好きな活字本雑誌がある、質問⑰活字本雑誌を毎週読んでいる、質問⑱活字本を月に1冊以上読む。

これらの質問が、自分自身にどれだけあてはまるかを「1：まったくあてはまらない」「2：あまりあてはまらない」「3：どちらともいえない」「4：かなりあてはまる」「5：とてもあてはまる」の5段階で評定をしてもらった。第2部は、「マンガ・アニメ・活字本」それぞれについて、「過去3年間で読んだものの題名と作者を3つあげてください」として、作品名と作者を書いてもらった。

調査は、2013年4月の第1回目の授業のときにそれぞれの大学・短期大学において行った。

3. 結果と考察

第1部の評定結果は表1のようになった。

「マンガ」についての質問①の「マンガを読むのが好きだ」では、全体が3.8、女子が3.7、男子が4.0、質問②の「好きなマンガの作品がある」では、全体が3.8、女子が3.7、男子4.2、質問③の「好きなマンガの作家がいる」では、全体が2.9、女子が2.8、男子が3.0、質問④の「好きなマンガ本(単行本)がある」では、全体が3.6、女子が3.4、男子が4.1、質問⑤の「好きなマンガ雑誌がある」では、全体が2.4、女子が2.1、男子が3.0、質問⑥の「マンガ雑誌を毎週読んでいる」では、全体が1.8、女子が1.6、男子が2.4であった。「どちらともいえない」という3ポイントより上の評価がされたのは、全体では、質問①の「読むのが好きだ」、質問②の「好きな作品がある」と質問④の「好きな本がある」であった。

男女別に見ても、全体と同じく質問①、質問②、質問④であった。つまり、現在の大学生・短大生のほとんどが「マンガを読むのが好きであり、マンガの好きな作品があり、好きなマンガ本がある」ことが分かる。質問⑤と⑥は評定値が2.5以下であることから、「ある雑誌が一番好きである」というようなことはなく、毎週必ず読んでいるわけでもないことが推測される。

「アニメ」についての質問⑦の「アニメを見るのが好きだ」では、全体が3.4、女子が3.3、男子が3.4、質問⑧の「好きなアニメの作品がある」では、全体が3.4、女子が3.4、男子3.6、質問

表1 質問項目ごとの全体・男女別の平均と標準偏差 (SD)

		全 体			男 性			女 性		
		平均	SD	N	平均	SD	N	平均	SD	N
マンガ	Q 1	3.77	1.29	669	4.03	1.12	193	3.66	1.33	476
	Q 2	3.85	1.38	669	4.20	1.16	193	3.70	1.44	476
	Q 3	2.86	1.52	669	3.01	1.46	193	2.80	1.54	476
	Q 4	3.64	1.51	669	4.10	1.25	193	3.45	1.56	476
	Q 5	2.37	1.51	669	2.99	1.52	193	2.15	1.43	476
	Q 6	1.79	1.35	669	2.36	1.60	193	1.55	1.15	476
アニメ	Q 7	3.35	1.32	669	3.39	1.26	193	3.33	1.35	476
	Q 8	3.42	1.45	669	3.56	1.39	193	3.36	1.47	476
	Q 9	2.14	1.32	669	2.23	1.30	193	2.10	1.33	476
	Q10	2.07	1.36	669	2.25	1.37	193	2.00	1.35	476
	Q11	1.61	1.13	669	1.77	1.21	193	1.54	1.09	476
	Q12	1.39	0.95	669	1.48	1.02	193	1.35	0.92	476
活字本	Q13	2.91	1.32	669	3.03	1.20	193	2.86	1.37	476
	Q14	2.89	1.53	669	3.16	1.43	193	2.78	1.56	476
	Q15	2.59	1.55	669	2.89	1.47	193	2.47	1.56	476
	Q16	1.60	1.04	669	1.84	1.12	193	1.51	0.99	476
	Q17	1.35	0.86	669	1.51	0.91	193	1.29	0.84	476
	Q18	2.06	1.34	669	2.22	1.38	193	2.00	1.31	476
年 齢		18.4	1.33	669	18.9	1.64	193	18.3	1.13	476

⑨の「好きなアニメの作家がいる」では、全体が2.1、女子が2.1、男子が2.2、質問⑩の「好きなアニメ本（単行本）がある」では、全体が2.1、女子が2.0、男子が2.2、質問⑪「好きなアニメ雑誌がある」では、全体が1.6、女子が1.5、男子が1.8、質問⑫の「アニメ雑誌を毎週読んでいる」では、全体が1.4、女子が1.4、男子が1.5であった。「マンガ」と同じように、評定が3ポイントより上であったものは、全体では、質問⑦の「見るのが好き」と⑧「好きな作品がある」であり、男女においても同じであった。質問⑨と⑩では評定値が2点台、質問⑪と⑫では1点台とかなり低い評定値となった。これらのことから、「アニメを見るのが好きであり、好きなアニメ作品があるが、作家や雑誌にはあまり興味を示していない」ことが推測される。

「活字本」については、質問⑬の「活字本を読むのが好きだ」では、全体が2.9、女子が2.9、男子が3.0、質問⑭の「好きな活字本の作品がある」では、全体が2.9、女子が2.8、男子3.2、質問⑮の「好きな活字本の作者がいる」では、全体が2.6、女子が2.5、男子が2.9、質問⑯の「好きな活字本雑誌がある」では、全体が1.6、女子が1.5、男子が1.8、質問⑰の「活字本雑誌を毎週読んでいる」では、全体が1.4、女子が1.3、男子が1.5、質問⑱の「活字本を月に1冊以上読む」では、全体が2.1、女子が2.0、男子が2.2であった。「活字本」については、男子の「読むのが好きだ」と「好きな作品がある」の質問で評定値が3ポイントであっただけで、他はいずれも3ポイント未満となっている。これらのことから、「活字本を読むことは好きでもないし嫌いでもない、がどちらかという好きではない」ことが推測される。

以上のことをまとめると、大学生は「マンガ」を読むことや「アニメ」を見ることはどちらかというところが好きであるが、「活字本」を読むことに関しては、好きでもないし嫌いでもないといえるだろう。また、「マンガ」や「アニメ」には好きな作品があるけれども、活字本はそれほどでもない、作家に関しては、いずれにおいてもどちらともいえないといえるであろう。「活字本」を読むことが好きでもないし嫌いでもないことから、「活字本」を月に1冊以上読むこともあてはまらないのは当然のことかもしれない。やはり、大学生の活字離れは現実のものとなってきているようである。

第2部の「マンガ・アニメ・活字本」の作品名を上げてもらった結果の一部を表2～4に示す。

表2 最近読んだマンガ作品の反応数

No.	マンガ作品名	反応数	
1	ワンピース	163	11.56%
2	君に届け	73	5.18%
3	ナルト	54	3.83%
4	黒子のバスケ	37	2.62%
5	僕等がいた	36	2.55%
6	銀魂	34	2.41%
7	名探偵コナン	34	2.41%
8	アオハライド	32	2.27%
9	ストロボ・エッジ	32	2.27%
10	今日、恋を始めます	29	2.06%
11	スラムダンク	27	1.91%
12	BLEACH	26	1.84%
13	あひるの空	25	1.77%
14	Hunter×Hunter	23	1.63%
15	スイッチ・ガール	22	1.56%
16	テニスの王子様	20	1.42%
17	鋼の錬金術師	17	1.21%
18	メジャー	13	0.92%
19	ダイヤのA	12	0.85%
20	ドラゴンボール	12	0.85%
21	僕の初恋を君に捧ぐ	12	0.85%
22	ジョジョの奇妙な冒険	11	0.78%
23	ちはやふる	11	0.78%
24	マギ	11	0.78%
25	花より男子	10	0.71%
計		776	55.04%
反応総数		1,410	
作品総数		330	

表3 最近見たアニメ作品の反応数

No.	アニメ作品名	反応数	
1	ワンピース	154	10.85%
2	名探偵コナン	106	7.46%
3	ドラえもん	94	6.62%
4	サザエさん	86	6.06%
5	ちびまる子ちゃん	73	5.14%
6	クレヨンしんちゃん	65	4.58%
7	アンパンマン	37	2.61%
8	銀魂	37	2.61%
9	ナルト	30	2.11%
10	Hunter×Hunter	22	1.55%
11	宇宙兄弟	19	1.34%
12	新世紀エヴァンゲリオン	19	1.34%
13	あの日見た花の名前を僕等はまだ知らない	14	0.99%
14	黒子のバスケ	14	0.99%
15	プリキュア	14	0.99%
16	けいおん	13	0.92%
17	しろくまカフェ	12	0.85%
18	BLEACH	11	0.77%
19	ちはやふる	11	0.77%
20	ドラゴンボール	11	0.77%
21	美女と野獣	11	0.77%
22	ポケットモンスター	11	0.77%
23	トリコ	10	0.70%
24	夏目友人帳	10	0.70%
	計	884	62.25%
	反 応 総 数	1,420	
	作 品 総 数	266	

表4 最近読んだ活字本の反応数

No.	活字本作品名	反応数	
1	ハリー・ポッターシリーズ	30	3.05%
2	告白	17	1.73%
3	プラチナデータ	14	1.42%
4	図書館戦争シリーズ	14	1.42%
5	こころ	13	1.32%
6	ガリレオシリーズ	12	1.22%
7	リアル鬼ごっこ	12	1.22%
8	グッドラック	11	1.12%
9	カラフル	10	1.02%
10	バッテリー	10	1.02%

11	星の王子さま	10	1.02%
12	夜行観覧車	10	1.02%
計		163	16.57%
反 応 総 数		984	
作 品 総 数		551	

表2～4では、10名以上が挙げた作品を示している。表2のマンガでは25作品、表3のアニメでは24作品、表4の活字本では12作品であった。全体で上げられた数(以下総反応数とする)は、マンガでは延べ1,410作品で実質330作品、アニメが延べ1420作品で実質266作品、活字本が延べ984作品で実質551作品であった。

マンガについてしてみると、総反応数が1,410作品、調査対象者は669人なので、一人平均2.1作品を挙げている。そのうち10名以上のものが挙げている作品が25あり、その反応数の合計が776であり、総反応数の55.04%を占めている。第1位の「ワンピース」は反応数が163であり、総反応数の11.56%を占めている。いまだに人気のあるマンガであるといえる。実際、2013年11月2日にワンピースの第72巻が発売されたが、売り上げ(印刷)総数が600億を超えたと説明されている。その次が5.18%と第1位の半分にしかならないほど、人気の程がうかがえる。これらのマンガの中には、現在も連載されているものもあれば、すでに連載が終わっているものもあり、学生たちの興味の範囲の広さを物語っている。また、調査対象者の男女比は男子1に対して女子が2.46と、女子の方が多いにもかかわらず、少年雑誌に連載されている(いた)作品が25作品中16作品あることは、マンガが性別を超えて好まれていることの証左であるかもしれない。

アニメについてしてみると、総反応数が1,420作品で、一人平均2.1作品である。マンガとほぼ同じ程度の反応がある。10人以上のものが挙げている作品も24作品とマンガとほぼ同数である。反応数の合計は884と総反応数の62.25%を占めている。これはマンガよりも高く、マンガよりも一定の作品に好みが集まっているといえる。第1位はやはり「ワンピース」で、反応数が154で総反応数の10.85%を占めている。マンガだけでなく、現在もテレビで放映されていることや映画作品などがこの結果を支持していると思われる。第2位は「名探偵コナン」で反応数が106、総反応数の7.46%を占めている。これも現在放映中であることが要因であると考えられる。第3位から第7位までの「ドラえもん」「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」「クレヨンしんちゃん」「アンパンマン」は、いずれも「マンガ」で発売されているものであるが、「マンガ」では上位に上げられていないが、テレビ放映の影響が大きいと思われる。「アニメ」の場合は、テレビと映画という二つのメディアによる放映があるが、やはりテレビの影響の方が強いと思われる。

活字本についてみると、総反応数が984作品で一人平均1.47作品、総作品数が551であった。10人以上のものが上げている作品は12作品と「マンガ」「アニメ」の半分であり、反応数も163と全体の16.57%でしかない。これは「マンガ」「アニメ」に比べて、読まれる本が人によって違って、上げた人が一人である作品が850あること「マンガ」「アニメ」に比べると、総反応数で400、平均で0.6少ない。また「マンガ」「アニメ」との違いとして、〇〇シリーズが3作品上げられていることである。これは調査対象者がこれらのシリーズ内の一作品のみを上げていたため、シリーズものとしてまとめたからである。第1位の「ハリーポッターシリーズ」を30名が上げていて、

総反応数の3.05%、第2位の「告白」が17、1.73%と残りはいずれも1%強であった。これらの活字本はほとんどが映像化（アニメ化、映画化、ドラマ化）されており、その影響も強いと考えられる。その中で、第5位の「こころ」と第11位の「星の王子さま」は、作品的に最近のものではなく、クラシックな名作なので、読まれる理由が別にあるのかもしれないが、かなり健闘しているといえるだろう。

「マンガ」・「アニメ」と「活字本」の3つを比較すると、「マンガ」・「アニメ」は10人以上のものが読んだもしくは見たと挙げた作品は25と26で、占有率が55%と62%と過半数の人が読んだあるいは見たという、同じような傾向を持つと考えられる。「活字本」は、読んだと挙げた作品が12で、占有率が16%と「マンガ」「アニメ」に比べて、多数の人に読まれる作品数が少ないということから、読む人の好みが大きく影響していると考えられる。

「マンガ」「アニメ」「活字本」のそれぞれを、読むもしくは見るのが好きだという質問に対して、「とても当てはまる」「やや当てはまる」と答えた評価4以上の回答者群（以下上位群とする）と「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」と答えた評価2以下の回答者群（以下下位群とする）の2つに分けて、それぞれについての作品平均反応数と他2つのものが好きかどうかについて分析した。

表5 「マンガを読むのが好き」を基準とした「アニメを見るのが好き」と「活字本を読むのが好き」の評価と反応

		マンガ		アニメ		活字本	
		問1	反応	問7	反応	問13	反応
評価4以上	M	4.6	2.6	3.8	2.3	3.2	1.6
	SD	0.48	0.81	1.25	1.02	1.29	1.28
	N	419	419	419	419	419	419
評価2以下	M	1.6	1.0	2.5	1.8	2.2	1.1
	SD	0.50	1.11	1.27	1.24	1.22	1.21
	N	120	120	120	120	120	120

表5は、「マンガを読むのが好きだ」を基準として、「アニメを見るのが好きだ」「活字本を読むのが好きだ」における平均評定値と「マンガ作品数」「アニメ作品」「活字本作品」の平均反応数を示している。これを見ると、「マンガを読むのが好きだ」という質問に対して、上位群は669名中419名で約63%を占めており、平均評定値が4.6である。下位群は120名で約18%であり、平均評定値は1.6である。上位群は下位群の約4倍弱の数となっていることから「マンガを読むのが好き」であることがわかる。作品の平均反応数が上位群では2.6冊、下位群では1.0冊と差があるのは、好きだから読み、好きでないから読まない、当然の帰結といえる。t検定の結果1%水準で有意な差が認められた ($t=17.1$, $p<0.01$, $df=537$)。「アニメを見るのが好き」という質問に対しての平均評定値は、上位群が3.8、下位群が2.5であった。t検定の結果、1%水準で有意な差が認められた ($t=9.96$, $p<0.01$, $df=537$)。アニメ作品の平均反応数は、上位群が2.3作品、下位群が1.8作品で、1%水準で有意な差が認められた ($t=4.41$, $p<0.01$, $df=537$)。これらの

ことから、「マンガを読むのが好きだ」と認めているものは、「アニメを見ること」がどちらかという好きであるといえるだろうし、作品数もそうでないものよりもやや多く見ていることがわかる。最近では多くの「マンガ」がアニメ化されていることもあり、好きなマンガや読んでいたマンガがアニメ化されればそれも見てみたいと思うことは人の感情として当然のことなのかもしれない。逆にそこをアニメ化制作者などは考えているともいえるだろう。「活字本を読むのが好き」という質問に対しての平均評価は、上位群が3.2、下位群が2.2であった。t検定の結果、1%水準で有意な差が認められた ($t=7.67, p<0.01, df=537$)。活字本作品の平均反応数は、上位群が1.6作品、下位群が1.1作品で、1%水準で有意な差が認められた ($t=4.41, p<0.01, df=537$)。このことから、「マンガを読むのが好き」と認めているものは、活字本を読むことが好きか嫌いかという、評価平均値が3.2ということから、「どちらともいえない」といえるだろう。作品の平均反応数を見ても、検定では有意な差が認められるものの1.6と1.1、3つの作品を出せるにもかかわらず2冊に満たないことは、活字本を読むのが好きだとは言い切れないであろう。「マンガを読むのが好き」が当てはまらないものも、「活字本を読むのが好き」に当てはまらないことから、「マンガを読むのが好き」であろうとなかろうと、活字本を読むのは好きではないといえるであろう。これは『「マンガ」を読む子どもは「活字本」も読む』ということを支持しない結果である。これについてはさらなる調査検討が必要であると思われる。

表6 「アニメを見るのが好き」を基準とした「マンガを読むのが好き」と「活字本を読むのが好き」の評価と反応

		マンガ		アニメ		活字本	
		問1	反応	問7	反応	問13	反応
評価4以上	M	4.3	2.4	4.6	2.5	3.2	1.6
	SD	1.04	0.94	0.49	0.83	1.31	1.26
	N	308	308	308	308	308	308
評価2以下	M	3.0	1.8	1.6	1.6	2.6	1.3
	SD	1.36	1.19	0.49	1.22	1.29	1.23
	N	185	185	185	185	185	185

表6は、「アニメを見るのが好きだ」を基準として、「マンガを読むのが好きだ」「活字本を読むのが好きだ」の平均評定値と「マンガ作品」「アニメ作品」「活字本作品」の平均反応数を示している。これを見ると、「アニメを見るのが好きだ」という質問に対して、上位群は669名中308名で約46%、平均評定値は4.6である。下位群は185名で約28%、平均評定値は1.6である。上位群と下位群の人数差を見てみると約1.7倍ほどであることから、アニメについても「見るのが好き」であるといえる。アニメ作品の平均反応数は、上位群が2.5作品、下位群が1.6作品であり、検定の結果1%水準で有意な差が認められた ($t=9.19, p<0.01, df=491$)。「マンガを読むのが好き」という質問に対しての平均評定値は、上位群が4.3、下位群が3.0であった。t検定の結果、1%水準で有意な差が認められた ($t=12.0, p<0.01, df=491$)。マンガ作品数においても、上位群が2.4作品、下位群が1.8作品で、1%水準で有意な差が認められた ($t=6.54, p<0.01, df=491$)。こ

これらのことから、「アニメを見るのが好きだ」と認めているものは、「マンガを読むこと」が好きであるといえ、作品数もそうでないものよりも多く読んでいることがわかる。これは前述したように、多くの「マンガ」がアニメ化されていることが原因と考えられる。「活字本を読むのが好き」という質問に対しての平均評定値は、上位群が3.2、下位群が2.6であった。t検定の結果、1%水準で有意な差が認められた ($t=5.04$, $p<0.01$, $df=491$)。活字本作品数においては、上位群が1.6作品、下位群が1.3作品で、5%水準で有意な差が認められた ($t=2.39$, $p<0.05$, $df=491$)。このことから、「アニメを見るのが好き」と認めているものは、「マンガ」の場合と同じく、活字本を読むことが好きか嫌いかということ、評定平均値が3.2ということから、「どちらともいえない」といえるだろう。作品数についても「マンガ」の場合と同じく、検定では有意な差が認められるものの1.6と1.3、3つの作品を出せるにもかかわらず2冊に満たないことは、活字本を読むのが好きだとは言いきれないであろう。

表7 「活字本を読むのが好き」を基準とした「アニメを見るのが好き」と「マンガを読むのが好き」の評価と反応

		マンガ		アニメ		活字本	
		問1	反応	問7	反応	問13	反応
評価4以上	M	4.2	2.4	3.7	2.2	4.4	2.3
	SD	1.06	0.98	1.32	1.10	0.49	1.02
	N	232	232	232	232	232	232
評価2以下	M	3.3	1.9	3.0	2.1	1.5	0.8
	SD	1.41	1.17	1.28	1.12	0.50	1.13
	N	257	257	257	257	257	257

表7は、「活字本を読むのが好きだ」を基準として、「マンガを読むのが好きだ」「アニメを見るのが好きだ」の平均評定値と「マンガ作品」「アニメ作品」「活字本作品」の平均反応数を示している。これを見ると、「活字本を読むのが好きだ」という質問に対して、上位群は669名中232名で約35%、平均評定値は4.4である。下位群は257名で約38%、平均評定値は1.5である。上位群と下位群の人数を見てみると、下位群の方が多少多いがほぼ同数とみてよいと思われるので、「活字本を読むのが好き」と認めているものとそうでないものが拮抗している。活字本作品の平均反応数は、上位群が2.3作品、下位群が0.8作品であり、検定の結果1%水準で有意な差が認められた ($t=14.6$, $p<0.01$, $df=587$)。平均評定値と作品の平均反応数から、活字本に対しては、読むのが好きと嫌いに明確に別れていることがわかる。読むのが好きなものはたくさん読んでいますが、読むのが嫌いなものはほとんど読まない、ということであろう。現代の若者の活字離れの一端を表す結果といえるであろう。「マンガを読むのが好き」という質問に対しての平均評定値は、上位群が4.2、下位群が3.3であった。t検定の結果、1%水準で有意な差が認められた ($t=7.64$, $p<0.01$, $df=587$)。マンガ作品の平均反応数においても、上位群が2.4作品、下位群が1.9作品で、1%水準で有意な差が認められた ($t=5.42$, $p<0.01$, $df=587$)。これらのことから、「活字本を読むのが好きだ」と認めているものは、「マンガを読むこと」が好きであるといえ、作品数もそう

でないものよりも多く読んでいることがわかる。「活字本を読むのが好きだ」とあまり思っていないものは、マンガに対しては好きでも嫌いでもなく、どちらでもないという評価になっている。これらのことから、「活字本を読むのが好きだ」と認めているものは「マンガを読むのが好きだ」と認めていることだから、『マンガを読む子どもは活字本も読む』という方向ではなく、『活字本を読むのが好きなものはマンガを読むのも好きである』という方向で考えるべきなのかもしれない。「アニメを見るのが好き」という質問に対しての平均評定値は、上位群が3.7、下位群が3.0であった。t検定の結果、1%水準で有意な差が認められた($t=5.58$ 、 $p<0.01$ 、 $df=587$)。アニメ作品の平均反応数においては、上位群が2.2作品、下位群が2.1作品で、有意な差が認められなかった($t=1.50$ 、 ns 、 $df=587$)。このことから、「活字本を読むのが好き」と認めているものは、「アニメを見る」のがどちらかというところ好きであるといえるであろう。作品数については、上位群と下位群との差が認められなかったことから、両群とも同じ程度の作品数を見ているのであろう。詳細な検討が今後必要になってくると思われる。

以上の結果から、現在の大学生の半数近くが、「マンガ」を読むことと「アニメ」を見るのが好きであると認めていること、「活字本」を読むことが好きであると認めているものは約35%と「マンガ」「アニメ」に比べて10%以上低いことがわかった。これは目的に書いた「最近の大学生は活字を読まない」ということを支持する結果と考えられるが、これからもさらなる詳細な検討が必要と思われる。

参考文献

1. このマンガがすごい！ 編集部編 「このマンガがすごい！ 2013」宝島社、2012
2. このマンガがすごい！ 編集部編 「このマンガがすごい！ 2012」宝島社、2011
3. このマンガがすごい！ 編集部編 「このマンガがすごい！ 2011」宝島社、2010
4. 吉村和真 編 「マンガの教科書」臨川書店、2008

(2013年12月2日 受理)